

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 清水 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

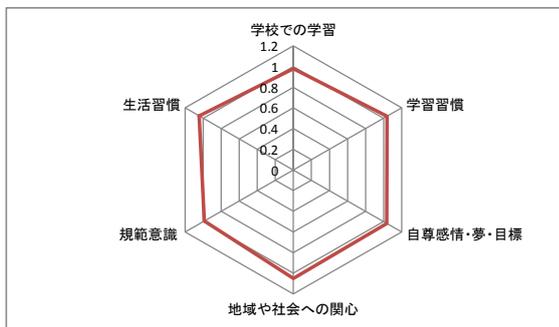
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率								
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国平均正答率を上回っており、特に言語についての知識・理解・技能や読む能力の数値が高かった。 ・書く能力だけを見ると、全国平均を下回っており、課題となった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	・慣用句の意味を理解し使う問題や、相手や場面に応じて適切に敬語を使う問題は、正答率が特に高い。	
	努力が必要な問題	・書くときの構成の工夫を考える問題は、正答率が全国平均を下回った。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国平均正答率を大きく上回っており、特に読む能力においては、10ポイント以上高かった。 ・課題としては、書くときの工夫を捉えることだと言える。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	・目的に応じて適切な読み物を選択する問題や文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にする問題が、特に高い。	
	努力が必要な問題	・「紹介する文章」を基にして「おすすめする文章」を書くときの適切な工夫を選ぶ問題は、他問題に比べ低かった。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率とほぼ変わらないが、極端に正答率の低い問題があったため、平均をわずかに下回った。 ・量と測定の単位量当たりの問題が課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・小数の除法の意味を問う問題や針金1mの重さを問う問題は、特に正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・二つのシートの混み具合を比べるため、単位量当たりの大きさを求める式や商の意味を問う問題は全国平均正答率を20ポイント下回った。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率をかなり上回っていた。特に数量関係の問題については大変高い正答率であった。 ・数と計算領域にやや課題が見られた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	・棒グラフや帯グラフから読み取ることができることを適切に判断する問題は、全国平均正答率を約40ポイント上回った。	
	努力が必要な問題	・輪飾りで折り紙の輪の色の規則性を解釈し、条件に合う色を選択する問題は平均をかなり下回った。	
理科	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を上回っていた。 ・エネルギーについての問題が特に課題となった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	・食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ問題や雲の様子や水位から天気と川の水位の関係を分析し考察する問題は、平均を10ポイント以上上回った。	
	努力が必要な問題	・目的時間帯に合わせるため、太陽の一日の変化を考えて光電池の適切な位置や向きを選ぶ問題が、特に低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・地域や社会で起こっている問題に関心が強く、将来の夢や目標をもっている児童が大変多いと言える。 ・人の役に立つ人間になりたいと思う児童は、100%となった。前向きに社会の中の一員としての自分を見つめていることが分かる。 ・学校の授業で自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりして発表している児童が昨年度に比べ2ポイント増加し、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりしていると自覚している児童は、昨年度より8ポイント上昇したが、どちらも全国平均にはわずかに及ばなかった。日々の授業改善に努めているが、継続しさらに工夫をしていきたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・授業改善として、教師による説明の多い授業や教師と児童全体による一問一答式の授業ではなく、児童の気づきや考えをペアやグループで確かめ合ったり練り合ったりする授業に向けて「話し合う活動」を工夫した学習計画を進めている。(発問や見通しのもとせ方の工夫、話し合う際の共通の言葉を確認するための「算数の言葉」表活用、説明しやすくするための見える化した教材教具等)

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の時間や態度を定着させるために、年度初めに学校便りで目安の時間や進め方について保護者啓発を行う。
・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、児童には毎日提出を促し教師はチェックし、励ます。また、月ごとに校長名のがんばり賞状を発行する。家庭学習でがんばっている児童の自主学習ノートのコピーを玄関に掲示し、広める。